

■事業報告 第62回自然観察会

北上川グリーンベルトを歩こう！

平成23年6月26日(日) 東北農業研究センター(盛岡市)



ミサゴ



メスアカミドリシジミ

●メスアカミドリシジミに出会えるか●

第62回自然観察会が、東北農業研究センター主任研究員白石昭彦氏を講師に迎え6月26日(日)に行われました。当日は梅雨の晴れ間で、観察に良いコンディションでしたが、講師から「メスアカミドリシジミの発生はまだ」と言われ、出会うかどうかドキドキのスタートでした。

雑木林の上方で怪しく舞うキアシドクガを見ながら、最初の観察場所へと向かいました。講師から「いません」と言われ、アナグマの掘った跡の説明も上の空。途中、牛ふん中のマグソコガネを突きながら進み、第二の観察場所で参加者の一部がメスアカミドリシジミを確認。小高い牧草地で気持ちよく昼食を取ってから、増水した北上川河畔に向かいました。水

際の藪を叩くと、アオハダトンボの群れのメタリック調の緑色の体が空に煌めきました。もう一度最初の観察場所を確認すると、熱気と日差しに誘われてメスアカミドリシジミがひらりひらりと舞っている姿を全員で見ることができました。



採集したメスアカミドリシジミの鑑賞

●ミサゴ幼鳥の安否と圧巻動物スライド●

観察会の始めの方で、「ミサゴの営巣木に幼鳥が見られない」「カラスにやられた」とのスタッフの声に戦慄が走りました。しかし、最後に営巣木絶好の観察が

イントにてフィールドスコープで確認すると、そこには親鳥と幼鳥の姿がありました。参加者が安堵する中、研究棟に場所を移して、講師が数年にわたってセンターの動物たちを撮りためたスライドを拝見しました。動物たちに肉薄する映像は、800mmの望遠レンズを三脚なしに操る講師だからこそ成せる技でしょう。

身近にありながら見過ごしがちな生きものたちに出会えた1日でした。



営巣木のミサゴ親子の確認

(主任専門学芸調査員 藤井千春)

■事業報告 第61回地質観察会

赤金鉱山跡を訪ねて

平成23年7月3日(日) 赤金鉱山跡(奥州市江刺区)

7月3日(日)奥州市江刺区の赤金鉱山跡で地質観察会が行なわれました。

●採石からの宝物●

まずは岩手砕石(株)伊手工場内の採石場(下写真)で、黄白色に輝く金属鉱物(磁硫鉄鉱)やガラス光沢の赤褐色の鉱物(石榴石)等を採集しました。下の写真は標高約500mの露頭で、写真奥の階段状の部分は切りとられた山の跡です。1段が約10mです。高所にもかかわらず、参加者は夢中になって鉱物を採集しました。



上の写真は講師の北峯瑞也氏が大きなハンマーで岩石を割り、新鮮な磁硫鉄鉱を採集しているところです。左の写真の上の露頭です。現場近くでは硫黄の臭いが立ち込め、下見の時には磁硫鉄鉱を容易に観察できたのですが、雨の影響で表面が真っ白な硫酸塩鉱物に変化していました。

●ズリ山からの宝物●

午後は卯根倉鉱業(株)が管理する赤金鉱

山栄鉱床のズリから岩石・鉱物を採集しました。下の写真はほぼ毎回参加している親子です。その後方は地元の高校生と先生で、鉱山跡を研究するために参加してくれました。親子の策の中にはスカルン鉱物で、黄緑色のベスブ石が入っています。



参加者は同じ趣味を持つ仲間たちとともに、地球からの贈り物を楽しそうに採集していました。

(上席専門学芸調査員 吉田 充)